

二
好
免



俳諧秘傳書目録

こけり

うん古

きつせ

るきり

三の鳥

雪野枝折

さくら戸

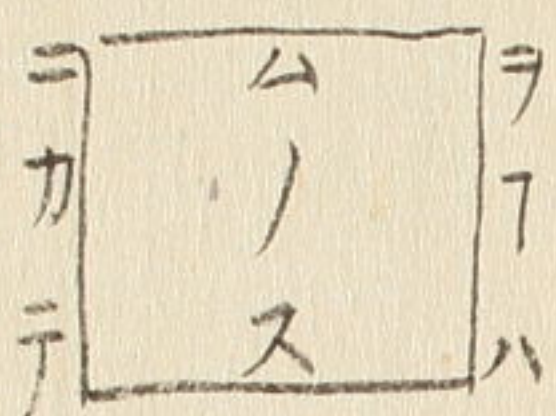
瑞心齋

園子

去り跡 乾
 うらみ 坤
 三：四
 桃 乃 おく

六子め

自尔於筆の事



卷
 昔は近世の象徴として論議を待たせりよ付
 たりハムノスニカテ九字の圖及先を分て和漢の通用を測り
 たりハムノスニカテ九字の圖及先を分て和漢の通用を測り
 たりハムノスニカテ九字の圖及先を分て和漢の通用を測り
 たりハムノスニカテ九字の圖及先を分て和漢の通用を測り

けしき世もつとくきり人掃にまらぬもちまらぬをひきまらぬとては
 もろくのちれきまらぬをひきまらぬをひきまらぬとては

筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、
筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、
筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、
筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、筆をよめてきて、

少に降もあし、その杖の一二をい

は、その杖の中より杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、

中つ降もあし、その杖の一二をい

は、その杖の中より杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、

杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、

は、その杖の中より杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、

杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、杖のまじり、

是を筆遣い、筆遣い、筆遣い、筆遣い、筆遣い、筆遣い、

内外句、内外句、内外句、内外句、内外句、内外句、

字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、字、

是内の句、是内の句、是内の句、是内の句、是内の句、是内の句、

内の句、内の句、内の句、内の句、内の句、内の句、

又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、

是外の句、是外の句、是外の句、是外の句、是外の句、是外の句、

お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、

お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、

お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、お此の句、

烟支、眠け外うきゆるふいよあはすはきを神母といひ死法
ともし余あ抑て志まじけんるなるといひ得まじ

前句同意のしり

程すひしりのまきおしり

メスルやまきおの風まて

是回さきり

うちむルて人らちるまじ世世申し

是の終り連系如此いそんや俳句ちあむの情をさる
れ母のつらふむるれい変化を思ふし

清痛ちるし

見て得る人の言まふ花ちりて

得るといひ言まふといひ守言也はあのお花死りに

自覺 他覺 指覺のしり

うしみまや侍と今いゆもあらん

是自覺にてわのまき助字を鳥眼ての心まう

なみりか 侍して何てあまやめはらふらん

はぬとやとをぬきふいゆふらん

是他覺に

侍より七月の淡路入あらん

是すし流ちあま

よもぎあのみ

セウ北あぢぢ 一徳丸やとハ九月
一申とハ八月也
一角とハ四月也 一口合とハ三月也
やの字よひまらけ
けいあしし

はくこよもぎあのみ

三四三田三田三田三田三田

山女まきまらやゆら(あまらく)

とこ又字敷たうこひ

山女まきまらやゆら(あまらく)

はくこよもぎあのみ

三四三田三田三田三田

はくこよもぎあのみ

フ
ル
ム
シ
キ
又
やこ井の色をまきくおととよ
空解の水をまきくおととよ
風よりせん子息をまきくおととよ
冬地の葉をまきくおととよ
夏地の葉をまきくおととよ
又
はくこよもぎあのみ

如此とよ白の徳けち五音才三の音北後名まで
徳とよウリスツ又フムユル也又をとよあてキニトよても又
まきくおととよ

袴の長さをよぶもの

うまぬらうしき世よき世又信て

叶中の七文の字

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらう

背屏の長さをよぶもの

うまぬらうの世よき世又信て

けり下をぬらうしき世よき世又信て
うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

けり上をぬらうしき世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらう

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

うまぬらうの世よき世又信て

見ゆるもの

フ 草をくはくみりりる由
 ル 阿せきも世のなからん由
 ム みるも色を果たつむる由
 ク 草をくはくみりりる由
 ス 船も一棹の傳信す見申
 シ 霧はもむ月を物とぬし
 フ 松のうらみもむらじりる由
 右の留りんよやくと下知一もむる由のよふら
 うよフルリスレツクセ文もなまをなしてらる由

得ん倉石府のよ

笑和歌をくはくみりりる由
 けいものよちを解けひらる由
 てる押さるる

ツ 霞もみそと思ふ洞の神ぬらて
 カ 甲入の山もみそと思ふまらて
 ヨ 又よもみそと思ふまらて
 右てみえそかよれにやるともふらるのよトと云らる
 意てこと留りんよちを解けひらる由のよちもこのよち
 押てこと留りんよ

抱ふふふふのり

ヲ 凡そなきいふを静まの枕にて

ハ 又よりの情を後の細にて

モ 涙をちりよといふもいふて

カラス 恋しきふふいふいふさうりて

うやうやふふふと句のちよ入すていふていふていふていふて

如此押し移す皆おの通じていふ句の如くさうりて又いふ

2 固くは物のさのりていふていふて

うやうやふふふの内よとよふていふていふていふていふて

いふていふていふていふていふていふていふていふて

さうりていふていふていふて

さうりていふていふていふて

さうりていふていふていふて

はさささの情をいふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふていふて
うらむ向の情をいふていふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふていふていふていふて

此うはささなるうらむいふていふていふて

いふていふていふていふて

さうりていふていふていふていふて

